

# ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2026年3月24日発行【再刊第45号】

## 今号の話題

- イルミナヒストリア開催決定  
光と朗読、音楽が湖畔に彩り
- 氷濤まつり 12万7077人来場  
微減するも多数の来場者
- 空港開港 100年記念イベント  
10月までに多彩に開催

「支笏湖イルミナヒストリア」初開催

光、音楽、朗読の競演

ヤマザキマリさん、鳥山雄司さん出演

国立公園支笏湖運営協議会主催

支笏湖園地を音楽と光、物語で彩る新たな試み「支笏湖イルミナヒストリア」が4月4日から29日まで、支笏湖ビクターセンター前の園地で初開催されます。千歳とゆかりの深い漫画家・文筆家・画家のヤマザキマリさんが朗読し、ギタリスト、音楽プロデューサーの鳥山雄司さんが音楽を手掛けた内容。幻想的なイルミネーションで彩られた会場内、期間中はハンマーダルシマー演奏が行なわれ、千歳フィルハーモニーオーケストラも出演します。

観光連盟が事務局を支援する、国立公園支笏湖運営協議会主催。



支笏湖園地を音楽と光、物語で彩る新たな試み「支笏湖イルミナヒストリア」が4月4日から29日まで、支笏湖ビクターセンター前の園地で初開催されます。千歳とゆかりの深い漫画家・文筆家・画家のヤマザキマリさんが朗読し、ギタリスト、音楽プロデューサーの鳥山雄司さんが音楽を手掛けた内容。幻想的なイルミネーションで彩られた会場内、期間中はハンマーダルシマー演奏が行なわれ、千歳フィルハーモニーオーケストラも出演します。

支笏湖園地を音楽と光、物語で彩る新たな試み「支笏湖イルミナヒストリア」が4月4日から29日まで、支笏湖ビクターセンター前の園地で初開催されます。千歳とゆかりの深い漫画家・文筆家・画家のヤマザキマリさんが朗読し、ギタリスト、音楽プロデューサーの鳥山雄司さんが音楽を手掛けた内容。幻想的なイルミネーションで彩られた会場内、期間中はハンマーダルシマー演奏が行なわれ、千歳フィルハーモニーオーケストラも出演します。



贈呈式に出席したヤマザキさん（右から3人目）、大西社長（同4人目）

「イルミナヒストリア」は「歴史を照らす」という意味です。大自然が紡いできた支笏湖の歴史を光で表現します。光による空間演出、ポイントライトやホワイトロックといった演出が、訪れた人を楽しませます。

コンサートの時間は午後6時から同7時まで。定員は各日30人。定員数を超えた場合は立ち見での観覧もできる。料金は1人1000円。

各日のスケジュールは次の通りです。

▼4日、29日 ヤマザキさんが語り、鳥山さんの演出と千歳フィル演奏による朗読コンサート▼11日 千歳フィル演奏▼18日 ヤマザキさん&千歳フィル朗読コンサート▼25日、馬頭琴・喉歌（ホーミー）の嵯峨治彦さん。打弦楽器ハンマーダルシマー奏者の小松崎健さんが出演。

## 氷濤まつり2026 入り込み数

### 前年比で微減

# 12万7077人

### 札幌圏の大雪等影響

### 氷の世界 国内外観光客楽しむ

国立公園支笏湖運営協議会の主催する「2026千歳・支笏湖氷濤まつり」の氷の美術館（2026年1月31日～2月23日）の入込数が12万7077人となりました。前回に比べて3%程度の減少で、背景には札幌圏での記録的な大雪があったと考えられます。

開幕前の1月25日には札幌市内で60センチを超える積雪を観測。期間中も前半に雪に見舞われました。後半は好天に恵まれたものの、最高気温がプラスになる日もあるなど、氷像の解けるスピードを速めました。今年も大小約30基の氷像がお目見えした会場内。会場制作スタッフは近年の温暖化傾向を見据え、より厚い氷を造り、暖気にも持ちこたえられる氷像づくりに腐心しました。



今年の氷濤まつりも国内外から多くの人が来場しました

わいを見せました。また日本人来場者も目立ち、道内有数の冬のイベントとして、親しまれていることが再認識できました。

観光連盟では、同協議会の事務局機能を支援しています。今後も氷濤まつりのさらなる周知と誘客に関わっていく方針です。

### 千歳・支笏湖氷濤まつり

### ふるさとイベント大賞

### 優秀賞（地域活性化センター）

### 長表彰（受賞）

東京都の地域活性化センターが主催する「第30回ふるさとイベント大賞」の優秀賞（地域活性化センター長表彰）に、「2025千歳・支笏湖氷濤まつり」が選ばれました。

同賞は、全国各地の地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することで、ふるさとイベントのさらなる発展を応援するものです。24年7月1日



優秀賞を受賞した氷濤まつりは毎年、多数の来場者を魅了します

から25年6月30日までに開催されたイベントが対象で、今年は124件の応募があり、優秀賞は大賞、最優秀賞に次ぐ上位入賞です。大賞(内閣総理大臣賞)には「東京名物 神田古本まつり」(東京都千代田区・神田古書店連盟主催)、最優秀賞(総務大臣表彰)には「能代七夕『天空の不夜城』」(秋田県能代市・能代七夕天空の不夜城協議会主催)といった全国各地の多彩なまつりが入賞しています。受賞を契機に、氷濤まつりの魅力がより多くの人に発信されることを主催者一同願っております。

## 「羽根で学ぶ、鳥のこと。」 標本で千歳川の自然を学ぶ サケのふるさと千歳水族館

「羽根で学ぶ、鳥のじふ。withZoo & Aquarium」がサケのふるさと千歳水族館で3月6日まで開かれました。猛禽類医学研究所と、北海道内9つの動物園と水族館がコラボした鳥類の羽根の巡回展示

で、鳥が飛び立つように羽根を並べて作成した「羽根標本」が、来場者の目を引きました。

道内9動物園・水族館でつくる「北海道産いきもの保全プロジェクト」が企画した。同研究所研究員が美しい野鳥の羽根を集めて翼を広げたような標本を制作し、それぞれの園館で異なるテーマで展示。千歳水族館では猛禽類とサケマスの関係、千歳川周辺に生息する水鳥や河畔林で見られる鳥の羽を中心に展示しました。



羽根を通して千歳川の自然、野生生物について学んだ展示

オオセグロカモメ、キンクロハジロ、オナガガモ、アオサギ、オシドリといった鳥の羽を集めて並べ、額装し、1羽の鳥が羽根を大きく広げているような展示を披露しました。鳥の羽の色や模様をじっくりと見る機会はなかなかありません。来場者は羽根の細密な模様に見入るとともに、千歳水族館周辺で確認された野鳥や、ワシが食べ残したサケや排泄物が哺乳類や昆虫等のエサとして分解され、土壌を豊かにする生態系に関する説明にも注目していました。

## 空港開港100年

### 音楽イベント、パレードなど開催

#### 多数の記念行事を予定

千歳市は今年10月22日、大正15年10月に村民総出でによる作業で新千歳空港の源流となる着陸場ができて100年目の大きな節目を迎えます。これに合わせて、市内では記念式典をはじめ、中心市街地での市民パレードや野外音楽イベントなど、さまざまな行事が予定されています。

6月20日には日本航空大学校北海道の敷地内で野外音楽イベント「FLY HIGH fes. (フライハイフェス) 2026」を開催。市民パレードはJR千歳駅周辺での開催を予定し、東京デイズニールゾートスペシャルパレードが参加。子供たちによる楽器演奏などを行います。記念式典は10月22日に北ガス文化ホールで開催し、大正15年

に初めて千歳に飛来した「北海」一号機を操縦した酒井憲次郎操縦士の親族による講演やステージイベントを予定しています。

このほかにもさまざまな行事が予定されており、千歳の節目の年を華やかに彩るため、関係機関・団体が連携して準備を進めています。

## 千歳観光連盟

### 事務所を移転

観光連盟は3月に、市内流通3丁目から千歳市東雲町3丁目の千歳商工会議所3階に事務所を移転しました。

商工会議所と同じ建物内に移り、千歳市役所とも近いいため、市内事業者の皆さまや行政ともさらなる密な連携が可能になります。お気軽にお立ち寄りください。

## イベント情報

### ▼サケ稚魚放流体験2026

(2026年5月10日まで、サケのふるさと千歳水族館) 午前11時と午後2時の1日2回、各20分ずつ開催。学習室でサケの旅についてパネルで学んだ後に外へ移動。稚魚の入ったカップを受け取り、水族館横を流れる小川に放流します。対象は入館者で、放流自体の参加は無料です(別途入館料が必要)。参加者には記念カードを贈呈

▼支笏湖水開き(2026年4月12日午前10時)、支笏湖神社) 毎年4月、支笏湖の観光シーズンの幕開けを告げ、1年間の安全と繁栄を願う神事を執り行います。神前に用意される鍵のモニュメントは、湖水開きを象徴し。「支笏湖の観光シーズンの扉を開ける鍵」という意味があります。4月

に入ると支笏湖周辺のグルメやアクティビティも本格稼働し、4月下旬からはスワンボートなども楽しめます。

▼ノーザンホースパークマラソン2026(5月17日、苫小牧市美沢・ノーザンホースパーク) ハーフマラソン、ハーフマラソン+トレイルラン、トレイルラン、ペアランの4種目を開催。エントリー受付は3月15日まで。富士加代子さん、福島和可菜さん、阿部雅司さん、鈴木靖さん、神野大地さんが招待ランナーとして出場。競走馬育成施設内を走ることができ、唯一のマラソン大会で、直営レストランでつくる北の味覚も味わえるイベントです。



## 編集後記

3月中旬、親族に会うため宮崎県を訪問しました。宮崎空港の到着ロビーから見えたヤシの木に南国を実感。1日の最高気温は15度ほどと、3月の北海道から来た人間が歩くと汗ばむ陽気です。

滞在期間中は300以上の古墳が集中した西都原古墳群、西都原考古博物館を見学し、地元の鶏肉や牛肉も堪能しました。九州ならではの甘いしょう油、日向夏に代表される名産の柑橘類に、北海道の風土が生んだ味覚とは違う魅力を感じました。

ところ変われば品変わる。旅をして各地の魅力を知らると、千歳の魅力を再確認することにもつながった気がします。それも旅の面白さかもしれません。(ひ)